

「新渡戸稲造記念 がん哲学外来 in medical cafe」の時代到来



講師 順天堂大学医学部
病理・腫瘍学講座 教授

ひ の おき お
樋野興夫 先生

略歴

1954年島根県生まれ。順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授、順天堂大学大学院医学研究科環境と人間専攻分子病理病態学教授、医学博士。米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センター、米国フォクスチェースがんセンター、癌研実験病理部長を経て、現職。順天堂大学医学部附属順天堂医院に2005年に「アスベスト・中皮腫外来」を、2008年には「がん哲学外来」を開設した。第一回「新渡戸・南原賞」受賞。「内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄」を「新・代表的日本人」として尊敬している。

<著書> 「がん哲学」「末期がん、その不安と恐れがなくなる日」「われ21世紀の新渡戸とならん」「われ Origin of Fire たらんーがん哲学余話」「がん哲学外来の話」「がん哲学外来入門」など多数。

「がん哲学」とは？

「がん哲学」とは樋野氏が若き日から学び続けている南原繁（戦後初代の東大総長）（1889-1974）の「政治哲学」と吉田富三（元癌研所長・東大教授）（1903-1973）の「がん学」をドッキングさせたもの。「がん哲学＝生物学の法則＋人間学の法則」である。

「がん哲学外来」とは「生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする『陣営の外』に出る病理学者の出会いの場」である。病院で「がん」であると診断されても、病院内では診療時間が限られているので、患者とじっくりと話す機会が持てません。「がん哲学外来」の目的は、医師や家族などが自由な時間をもって患者とより深く対話していくことである。